

(仮称) 土浦市立上大津地区統合小学校基本・実施設計業務委託
契約候補者選定公募型プロポーザル講評及び選定理由

土浦市では、学校を、子どもたちが健やかな成長と自己実現を目指して学習活動を行い、一日の大半を過ごす人間形成の場であるとともに、地域コミュニティの拠点でもあると考え、地域一体となった学校づくりを目指しています。

地域に根差し、地域とともに進める学校づくりは、設計段階から情報発信を積極的に行い、多様な意見を取り入れながら計画を進める必要があります。選定検討委員会では、専門的な知見と豊富な経験を持ち、地域への理解を深めながら市とともに熱意を持って本設計に取り組める設計者を選定することが重要と考えました。

応募は5者からありました。最初に応募条件の確認を行い、1者が条件を満たさないと判断されたため、残り4者について一次審査を行うこととしました。選定基準に則り、評価点を確認した上で、4者全てに提案を求めることを全員一致で決定しました。

二次審査においては、各審査委員が提出された応募案を事前に読み込んでヒアリングに臨み、その後、各評価項目を採点した上で協議に移り、各委員が選考にあたって大事にしたい点、各者の提案内容について意見を述べ合いました。

その後、評価点を確認し、意見交換を行いました。評価項目として示した「安心安全な学校づくり」、「新たな学びを積極的に取り入れた学校づくり」及び「環境に配慮した学校づくり」については、各者とも評価できる内容でした。一方、「心の豊かさを養う学校づくり」、「持続可能な学校づくり」、「地域に開かれた明るい学校づくり」については、各者特色ある記述、設計提案がなされ、「配置の的確性」、「地域の特色を活かした独自提案」、設計内容については評価が分かれました。検討の結果、B社（楠山・須藤特定業務共同企業体）を選定することを、全会一致で決定しました。

特定されたB社は基本計画に示された市の考えをよく理解し、「未来へ歩む地域とともに、子どもたちの成長と新時代の学びを支える学校」というコンセプトのもとに、地域及び敷地の特性を活かした提案として全体的に高く評価されました。多様な学習形態への対応や特別支援教育等、これからの教育、学校の在り方について踏み込んだ記述がなされ、また、ラーニング・コモンズを中心に学校と地域との繋がりを生み出しやすいゾーニング計画となっており、インクルーシブ教育の実現に向け、市と共に深く検討を進めていくことが期待できます。

技術的な側面としては、1階をRC造、2階を木造とする立面混構造とすることで、基礎に係るコストの低減、低炭素化への寄与と共に、木質空間により快適で親しみのある学習環境が提案されています。

設計の進め方については、ワークショップの具体的なイメージが提示されており、また、昨今の建設物価高騰に対して、早い段階からコストチェックを重ねることで計画の実

現性を高める姿勢も評価されました。なお、屋根形状、教室の方位等について懸念されましたが、ヒアリングを通して解消できると判断されました。

今後、学校関係者や地域との意見交換を通じて設計内容をさらに深め、多くの人々の理解を得ながら計画をまとめ上げることが期待されます。

その他の各者の提案についての評価は下記の通りです。

A社は、唯一校舎を3階建とする提案で、中庭を挟んで要所を押さえながらコンパクトにまとめられている点が評価できます。それを生かした豊かな屋外環境提案や建設上の有利さ等について踏み込んだ説明がないのが残念でした。基本計画を概ね踏襲しているものの、一般的な記述に止まっており、敷地や地域の特色を活かした独自提案がやや物足りないとの評価となりました。

C社は、ラーニング・コモンズを中心に校舎全体をコンパクトにまとめ、動線もよく計画されており、一体感が生まれる可能性がある提案として評価されました。教室配置が単調で、不整形な敷地形状に対して、屋外環境の提案が地域性とやや馴染まず、敷地全体が十分活かされていないという評価となりました。

D社は、敷地の特性を活かし、土浦の文化や景観を意識した提案は高く評価され、明確な説明により建築的な魅力が随所に感じられました。職員室が2階にあることで昇降口の様子を把握しにくいこと、校舎棟で校地が分断され、昇降口がグラウンド側に面しておらず、上下足の問題が十分解決されていないことが問題とされました。また、示された概算工事費が想定を大きく超え、それを抑える姿勢と工夫がほしいところでした。

特定されなかった提案者の方々も含め、ご参加いただいた皆様にあつては、短い期間にも関わらず本プロポーザルに対して貴重な時間を費やしていただいたことに対し、選定検討委員会として心より感謝申し上げます。

(仮称) 土浦市立上大津地区統合小学校基本・実施設計
業務委託プロポーザル選定検討委員会
委員長 長澤 悟